

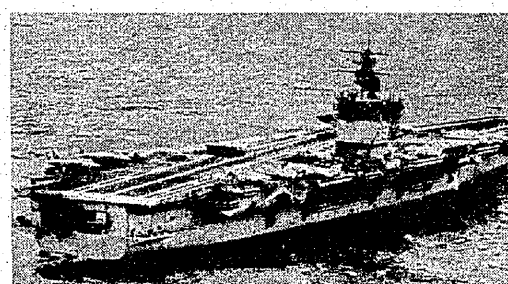
三月二十一日、佐世保市の松浦公園で開催された「反安保・反核・エンタープライズ寄港阻止西日本大集会」に、筑後プロック地区の一角として参加しました。

昨年の同日、米・レーガン大統領がぶちあげた対ソ強硬戦略の一環としての、NATOへのパッシング・ミサイル配備、そして全面核戦争へ発展しかねない「限定核戦争論」に、世界的な反核運動が燎原の火のように広がり、わが国でも被爆地広島で二十万人の反核大集会もたれたことは記憶にあたりしいことです。

この日に焦点を合わせたような今回のエンタープライズ寄港は、表面上に「さかな親善ムードでカモフラージュしても、その狙いは佐世保を第七艦隊の恒久的な母港化する」ことであり、許すことはできません。

十九万人の兵員が参加し、アジアでの最大規模の米・韓合同軍事演習「チームスピリット83」は、朝鮮半島での有事を想定し実施されました。

就任らしい軍拡路線を突っ走る中曽根内閣は、米・日・韓の三國軍事同盟を推進し「この障害になる非核三原則、GNPパーセント枠、海外派兵などの制限をなし」すべく「こころ」を



一九六一年に就航した、米原子力空母の第一番艦。加圧水型原子炉八基を積み、速力三十五ノット(時速六十五キロ)で走る。攻撃機、電子偵察機、対潜ヘリなど八十百機積載。乗組員は艦長を首とする三千人、航空要員二千四百人の計五千五百人。艦内には病院、売店、テレビ局、刑務所まである。排水量は七万五千七百トン、全長三百三

## 許せぬ母港化

エンブラ阻止集会で

6分会(三川) 村上 和行

に核を積んでいるのぞ、いちいち取り返すことは考えられず、非核三原則は無視されていると思ふ。佐世保の米艦母港化は、有事の際には、まっ先に核攻撃の目標になるのは明らかで、本當に腹がたつ。この怒りを表すには統一地方選挙に勝つことだと主張しています。

「私は十五歳の学生です。長崎の原爆で親戚の人は亡くしました。学校で『日本は世界に誇れるものを持っている』と教わりました。原爆の経験で、日本は平和運動のリーダーになれるはず。だから平和のリーダーシップをとってほしい。戦争は絶対に反対です」

また、三千人の警官を動員して、佐世保から約二十キロメートルも手前の西有田に検問所を設け、市内では大通りや辻々にバリケードを築いていたが、そのものものしさにファシズムの気配を感じました。

一万二千人の集会は、十五年前には参加していなかった大勢の青年たちが大半で、私たちが反戦・平和の闘いを続けるかぎり、新しい芽が次々に育っていくことを確信しました。これを大切にしよう闘いを強めなければと決意しています。

ですが、私がバスの中で聞いたラジオ放送では、多くの『エンブラ寄港反対』の意見が寄せられていました。

一九六一年に就航した、米原子力空母の第一番艦。加圧水型原子炉八基を積み、速力三十五ノット(時速六十五キロ)で走る。攻撃機、電子偵察機、対潜ヘリなど八十百機積載。乗組員は艦長を首とする三千人、航空要員二千四百人の計五千五百人。艦内には病院、売店、テレビ局、刑務所まである。排水量は七万五千七百トン、全長三百三

一九六一年に就航した、米原子力空母の第一番艦。加圧水型原子炉八基を積み、速力三十五ノット(時速六十五キロ)で走る。攻撃機、電子偵察機、対潜ヘリなど八十百機積載。乗組員は艦長を首とする三千人、航空要員二千四百人の計五千五百人。艦内には病院、売店、テレビ局、刑務所まである。排水量は七万五千七百トン、全長三百三

## 港務所の福利交渉決裂

抗議の時限ストに突入(25日)

三井石炭の労働協約・労働条件・福利厚生などの諸要求闘争のあとを受けて、港務所の交渉が三月十六日から行なわれました。

注目されていましたが、①全国的に不況であり、その影響で経営が苦しい。②関連企業が合理化をすすめており、その関係で考えなければならぬ。と追及しました。

要求の職場環境関係四項目、労働協約・労働条件関係十四項目、分の時限ストで抗議しました。

三井労組は、①回答に誠意がない。②分離したに独自性がなく、苦しい。③黒字であり、他社の合理化は理にかならない。と追及しました。

社員組合がすでに了解したこともあり、三井労組は最終的に文化資金、永年勤続表彰、住宅資金貸し付けの三項目を協定し、他は決裂、二十五日港務所の一時閉鎖、労働協約・労働条件関係十四項目、分の時限ストで抗議しました。

## 短信

### 15年間で最低賃金の伸び

財団法人労働行政研究所がこのほどまとめた民間企業の一九八二年年度年間賃金(従業員五百人以上の企業)は、一八八社対象、平均三万五千二百四十二円、対前年度伸び率三・八％にとどまった。この伸び率は、同研究所が六八年に調査を始めて以来十五年間の最低。毎月給与が四・一％増に対し、賞与は三・一％増で、賞与の落ち込みが目立っている。

この年間平均賃金を七二年年度の百二十七万三千七百円に比べると、十年間で二・七七倍になっているが、物価も二・三〇倍で、賃金は実質的には一・二倍。また五年前との実質比は一・〇六倍にすぎず、これに五年間の増税などを加味すると、サラリーマンの生活は厳しくなっている。



十八分会(港務) 新居 俊美さん

「……もっと若い人を紹介して、これだ、無事に登壇してもらった。定年退職後、再雇用になってやがて二年。その気持ちもわからないではないが、そんな歳を全然感じさせない元気がいい。……この年代の多数が経験したように、新居さんもまた波瀾の時代を生きてきた。戦前の満鉄時代、兵役、そしてシベリアでの抑留生活……。昭和二十三年に引き揚げ、翌年四月三池港務所に入り運輸守衛となる。その後三池港務所を境に、相ついで合理化によって配転、現在は荷役課の機械運転士として、『スタッカー』の運転にた

「……最近の労働戦線の動きを見ると、かつて三池港務所が流血の惨事を経験していること、釣りも「あちこち歩いてきた。酒も毎日欠かせないが、どうしようもなかったこと、な



新居さんは、玉名郡明善町山下で奥さんの幸子さん(52)、長男の俊幸さん(26)の三人暮らし。長女はすでに嫁いでいる。

## あほだら 艾岡友街



## 春闘白書の要約 ④

### (6) 労働時間短縮

日本の労働時間短縮は第一次シエアリング(皆が時間短縮でオイルショック以後ほとんど仕事をかち合う)の考え方はトップの状況にあります。西欧諸国の年間実労働時間千七百、千八百時間に比べて日本は二千八百時間と二・三百時間も長いという構図は全く改善されていません。このことが不正競争の要因として海外から指摘されているだけでなく、国内の失業の増大の面からみても、ワーツ

### (7) 賃金水準の相対的低下

経済は伸びているのに賃金は停滞しています。戦後の経験から明らかのように、経済の発展は必然的に社会の人々の生活の仕方や生活水準というものを変革します。したがって、社会の実態の変化に消費が追いつかない苦しさ再び七〇年後半から八〇年代にかけて起つてい

### (8) 社会的賃金格差の拡大

日本の賃金の問題点は、こう春闘相場よりも低くなってきてきた水準の相対的低さはかなりです。もしもこうした傾向がでなく、むしろ格差など、その構造的側面にあります。一九五八年以降、規模別、男女別格差などは高成長・人手不足の中で縮小の方向をとってきましました。また、規模別の春闘賃上げ率はむしろ中小企業の方が高かったのですが(これは水準が低い以上格差縮小の方向への当然の傾向(一・二)年の間に逆転の傾向があらわれています。また地域包括最低賃金の引き上げも